

大池小学校だより

1月号 (令和4年1月7日 発行)

# 日の出が丘

【学校教育目標】 **本気で学び 思いやりのある子**

【重点目標】 **日々、前に進む子**



## 「読書を楽しむ子にするために」

大池小学校長 力石 和彦

新年あけましておめでとうございます。

本年も皆様にとってよい1年となりますことを心より祈念いたします。

冬休み中に、大きな事故等の報告がなく、子供たちが元気に登校してきた姿をみることができ、大変うれしく思います。

昨年の後半から新型コロナウイルスへの感染が下げ止まりとなり、感染予防対策の基準が緩和されました。本校では、休み時間に運動場で遊べる学年を増やしたり、グループ学習の人数や時間の制限を緩和したり、児童大集会を実施したり、少しずつではありますが、日常を取り戻すことができました。しかし、現時点において、オミクロン株が世界的に流行し、日本においてもその兆しが見え始めています。3学期も注視が必要です。引き続き、「3密の回避」「手指消毒の徹底」「マスクの正しい着用」等、基本の感染予防対策に努めてまいります。蔓延状況によっては、行事等の実施の工夫や変更も予想されます。ご理解とご協力のほど、よろしく申し上げます。

2学期終業式の校長の話において、「あいさつ」「読書」と2つの宿題を子供たちに出しました。ご家庭での子供たちの様子はいかがだったでしょうか。「読書」に関しては、夏休みにも、私からの宿題としていました。これには大きな意図があります。改めてお知らせしますが、1学期と2学期の学校評価において、保護者・子供ともに、読書への取組の評価が低く、とても気になったからです。

全国学力・学習状況調査やPISA調査などの結果から、読書と学力には相関関係があり、「本をよく読む子は読まない子に比べて平均点が高い」ことが立証されています。その他にも読書をすることにより、「語彙が増え、漢字に強くなる」「思考力が高まる」「文章力が付く」といった学習面に加えて、「コミュニケーション力が高まる」「ストレス解消」など、たくさんのメリットがあります。一方で、デメリットについてはほとんど聞いたことがありません。私としては、夏休み・冬休みともに、たくさんの本に触れてもらいたかったのです。

しかし、多くの保護者の皆様は、メリットはわかっている、「子供が本を読んでもくれない」ということで悩んでいるのではないかと思います。ではどうすれば子供たちは本を読む状況になるのでしょうか。私の経験から言えば、『読書する環境を整える』ことが1番大切だと考えます。親がスマホやタブレット中心の生活をしていざすれば、子供も同じようにスマホやタブレットやゲームをするのが普通になります。親の姿がその子にとって生活環境そのものだからです。では、親が毎日30分、決まった時間に本を読んだらどうなるでしょう。これが環境を整えるということです。加えるなら、特に借りたり、買ったりしなくてもよいので、1週間に1回は一緒に図書館や本屋へ行くのも大変効果的です。また、読んでも読まなくてもよいので、子供用の本棚を作るのも効果があります。低・中学年なら、親の読み聞かせは絶大な力を発揮します。

いずれにせよ、子供に「本を読みなさい」と強要するのはマイナス効果。絶対にしてはいけません。本を読みたくなる環境を整えることだけを意識してみてください。子供たちにとって1番の環境は保護者です。タイトルにあるように、親が「読書を楽しむ」ことが大切です。きっと子供たちも読書を楽しむようになります。ただし、即効性は期待できません。焦らず、気長に待ってみてください。

残すところ、本年度も、あと49日となりました。引き続き、教育目標『本気で学び、思いやりのある子』に向けて精進してまいります。改めて、ご理解とご協力のほどよろしく申し上げます。